

令和4年度

年間学習計画
<シラバス>
(1年生用)



高知県立高知北高等学校 定時制 昼間部

目 次

【国語】

現代の国語
言語文化
基礎国語

【地歴・公民】

公共

【数学】

数学
基礎数学

【理科】

科学と人間生活

【外国語(英語)】

コミュニケーション英語
基礎英語

【保健体育】

保健1
体育2
スポーツ講座1

【芸術】

音楽
美術
工芸
書道

【情報】

情報 I

【その他】

総合探究
共通講座

登録基礎表

| | | | | | | | |
|-------|----|-------------|-------|------|-----|----|----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 現代の国語 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 現代の国語（数研出版） | | 副教材等 | | | |

| 学習の目標 |
|--|
| 言葉によるものの見方、考え方を働かせ、言語活動を通じて、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質、能力を育成し、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|--|--|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈するとともに、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考え、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の獲得、思考力・判断力・表現力を身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行い、自らの学習を調整することができる。 |
| 定期考査・小テスト・ワークシート等 | 定期考査（思考問題）・ワークシート・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・提出物・総合的な取り組み状況 |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間 等 |
|----|--------------------------------|--|---------------|
| 4 | 【1】オリエンテーション 「言葉は『贈り物』」 | 【1】本校のシステムや、評価方法などを理解させる。 現代の国語の特徴や学習方法について理解させる。 | 2 |
| 5 | 【2】書き手の意図をつかむ 「目指す世界の地図を作る」 | 【2】叙述を捉え要旨を把握するとともに、比喩に込められた筆者のメッセージを読み取る。 | 8 |
| 6 | 【3】文章の展開を把握する 「時間とは何か」 | 【3】叙述を捉え要旨を把握するとともに、具体例を手掛かりに、人間は時間をどのようにとらえているかを読み解く。 | 8 |
| 7 | 【4】対比を読み取る 「水の東西」 | 【4】二つの文化の比較を通じて、それぞれの特徴を浮き彫りにしようとする筆者の思考をたどらせる。 | 9 |
| 8 | 【5】コミュニケーションと言語 「世間話はなぜするか」 | 【5】他者との関係において、世間話や挨拶のような意味を持つと述べられているかをつかませる。 | 9 |
| 9 | 【6】言葉の働きをとらえる 「語感トレーニング」 | 【6】日本語の語彙がたどってきた変化を知り、筆者が指図する現代日本語の特性を理解させる。 | 8 |
| 10 | 【7】書き手の考えを比較する 「科学と非科学」 | 【7】筆者は、どのような点に「科学」と「非科学」の違いがあると主張しているかを読み取る。 | 8 |
| 11 | 【8】根拠を読み取る 「わらしべ長者の経済学」 | 【8】筆者が指図する「経済学的な考え方の普遍性」について、自分の考えをまとめる。 【その他】単元ごとに取り入れる ズームアップ、コラム、チェックポイント、言葉を使う | 8 |
| 12 | | | |
| 合計 | | | 70 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|------------|------|------|-----|----|----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 言語文化 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 言語文化（数研出版） | | 副教材等 | | | |

| 学習の目標 |
|---|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|---|---|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができるとともに、文章の意味は文脈の中で形成されることが理解できた。また、古典の作品や文章の歴史的・文化的背景や、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。 | 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができるとともに、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確に捉えることができる。 | 知識・技能の獲得、思考力・判断力・表現力を身に付けることに向けた粘り強い取り組みを行い、自らの学習を調整することができる。 |
| 定期考査・小テスト・ワークシート等 | 定期考査（思考問題）・ワークシート・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・提出物・総合的な取り組み状況 |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間等 |
|----|--|--|------------|
| 4 | 【1】オリエンテーション | 本校のシステムや、評価方法などを理解させる。 言語文化の特徴や学習方法について理解させる。 | 2 |
| 5 | 【2】地域の言葉 「とんかつ」 | 【2】言葉の特徴や使い方を知り、内容・構成・展開を捉える。 | 5 |
| 6 | 【3】古文に親しもう 「いろは歌と有名作品の冒頭部分」 | 【3】歴史的仮名遣いの読み方を理解する。 | 3 |
| 7 | | | |
| 8 | 【4】古文の世界を楽しむ 「児のそら寝」 | 【4】内容・構成・展開を捉え、解釈をする。 | 6 |
| 9 | | | |
| 10 | 【5】日本語の中に生きる漢文 【6】受け継がれる古典 「羅生門」 | 【5】訓読のきまりを理解する。 漢文の内容を解釈する。 【6】内容・構成・展開を捉え、解釈を深める。 | 6 8 |
| 11 | 【7】「故事と成語」 【8】漢詩を味わう | 【7】内容を解釈する。 【8】内容・構成・展開を捉え、作品について自分の考えを持つ。 | 5 6 |
| 12 | 【9】詩歌を味わう 【10】現代にも生きる教え 「徒然草」 | 【9】ことばの特徴や使い方を知る。 【10】内容・構成・展開を捉え、筆者の主張について自分の考えを持つ。 | 6 6 |
| 1 | 【11】論語のことば 【12】語感を磨く | 【11】内容を解釈し、自分の考えを持つ。 【12】内容の解釈を深め、自分の考えを持つ。 | 6 6 |
| 2 | 「側転の三夏」 【13】昔と変わらない人の心 「伊勢物語」 | 【13】内容を解釈し、自分の考えを持つ。 | 5 |
| | | 【その他】単元ごとに取り入れる 作者解説 探求の扉 ズームアップ 古典への招待 | |
| | | | 合計 70時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|----|------|------|-----|----|----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 基礎国語 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | | | 副教材等 | | | |

| |
|------------------------------------|
| 学習の目標 |
| 高校段階の学習内容につなげるため、義務教育内容の確実な定着を目指す。 |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|--|--|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 語彙力の重要性を理解するとともに、漢字を正確に読み取り、書いたりする力や、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことができる力を養う。 | 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとにとらえ、要旨を把握する力を養う。 | 言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 |
| 定期考査・小テスト・ワークシート等 | 定期考査(思考問題)・ワークシート・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・提出物・総合的な取り組み状況 |

| 月 | 単元名 | 指 導 内 容 | 配当 時間等 | |
|----|-----------|--|-------------------------|----|
| 4 | オリエンテーション | ・評価基準や国語を学習する必要性について説明する。 | 2 | |
| 5 | | ・文節の関係や指示語・接続詞など日本語について学習する。 | 13 | |
| 6 | | | | |
| 7 | | 漢字・語句・日本語文法 | ・ことわざや慣用句、四字熟語などの学習をする。 | 10 |
| 8 | | | ・外来語や対義語、敬語などの学習をする。 | 10 |
| 9 | | 授業内に次の学習をとりいれる。 ・漢字について反復学習をし、正確に書く習慣をつける。 必要に応じて実施する ・学習内容などについて感想や意見を書く | | |
| 10 | ・現代文 | ・評論を読み、構成や展開、表現技法について理解する。 ・小説を読み、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写をもとにとらえる。 | 10 | |
| 11 | | 【古文】 ・歴史的仮名遣いを学習し、古文を読む。 ・口語訳を参考に、文章の内容を理解する。 | 10 | |
| 12 | | 【漢文】 ・返り点や書き下し文など、訓読のルールを学習する。 ・口語訳を参考に、文章の内容を理解する。 ・歴史的背景などに注意して読むことで、古典の世界に親しむ。 | 10 | |
| 1 | | ・説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 | | |
| 2 | ・言語活動 | 授業内に次の学習をとりいれる。 ・漢字について反復学習をし、正確に書く習慣をつける。 授業内容は、実態や状況に応じて変更になる場合があります。 | 5 | |
| 合計 | | | 70時間 | |

年間指導計画

| | | | | | | | |
|-------|-----|----------|----|------|-----|--------|----|
| 教科 | 公民科 | 科目 | 公共 | 単位数 | 3単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 『公共』実教出版 | | 副教材等 | | プリントなど | |

| |
|--|
| 学習の目標 |
| 人間と社会の在り方についての見方、考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目的とする。 |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|---|--|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために、必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 | よりよい社会の現実を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。 |
| 定期考査・小テスト・ワークシート等 | 定期考査(思考問題)・ワークシート・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・提出物 総合的な取り組み状況等 |

年間指導計画

| | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間等 |
|----|---|--|-----------|
| 前期 | 第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 社会とは何か 第4章 民主国家における基本原理 | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。 ・青年期において生じるさまざまな変化を理解させる。 ・国際社会で生きるために、日本人が身に付けるべき態度と能力を考える。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解させる。 ・理想的な人間の生き方についてのソクラテス、プラトン、アリストテレスの主張を理解する。 ・三大世界宗教のそれぞれの特徴を理解する。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取りまとめる技能を身に付けさせる。 | 50 |
| 後期 | 第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加 第3章 現代の経済社会 第4章 経済活動のあり方と国民福祉 第5章 国際政治の動向と課題 第6章 国際経済の動向と課題 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解させる。 ・人口減少社会が経済に与える影響を考える。 ・必要な法整備と消費者の責任について考える。 ・国際連合が世界の平和と安全の維持のために多くの専門機関や関連機関と連携していることを理解させる。 ・持続可能な社会をめざすためのさまざまな制度や取り組みについて理解する。 ・経済のグローバリゼーションがもたらしたメリットとデメリットを、それぞれ理解させる。 ・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、現実社会の諸課題を探究する。 | 55 |
| | | 合計 | 105 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----------|----|------|-----|--------|----|
| 教科 | 数学科 | 科目 | 数学 | 単位数 | 3単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 数研出版 最新数学 | | 副教材等 | | プリントなど | |

| 学習の目標 | | |
|---|--|--|
| <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> | | |
| <p>(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> | <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> | <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|---|---|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> | <p>命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を身に付けている。</p> | <p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p> |
| <p>定期考査・小テスト</p> | <p>定期考査(思考問題)・発表・提出物等</p> | <p>教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況・振り返りシートの記述 等</p> |

通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間等 |
|----------------------------|---|---|-----------|
| 4 5 6 7 8 9 | 第1章 数と式 第1節 数と式 1. 多項式 2. 多項式の加法・減法・乗法 3. 展開の公式 4. 式の展開の工夫 5. 因数分解 6. いろいろな因数分解 第2節 実数 7. 実数 8. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 9. 不等式 10. 不等式の性質 11. 1次不等式の解き方 12. 連立不等式 13. 不等式の利用 第2章 集合と命題 1. 集合と部分集合 2. 共通部分 和集合 補集合 3. 命題と集合 4. 命題と証明 | 高校の数学を理解する上で最も大切なことのひとつに、いろいろな数や式についての計算能力を十分に養うことが挙げられる。また、数の構造についての理解を深めることも大切である。中学校で学んだことを復習しつつ、式の計算を、筋の通った考え方にしながら、正しくかつ自由自在に行う能力を養う。 ○ 中学校までに学習した数を分類・統合し、実数について理解する。絶対値記号、根号を含む式の計算、分母の有理化ができるようにする。数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式及び連立不等式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 * 基礎事項の確認を第一とし、あまり難解な問題には立ち入らない。 集合の表し方、用語、記号を学び、部分集合、全体集合と補集合などの知識を通して、集合の考え方を理解する。命題の真偽、反例を考えることができるようにする。いろいろな証明方法を学び、論理的な思考力を養う。 | 50 |
| 10 11 12 1 2 | 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数 2. 関数とグラフ 3～7. 2次関数のグラフ 8. 2次関数の最大・最小 9. 2次関数の決定 第2節 2次方程式と2次不等式 10. 2次方程式 11. 2次関数のグラフと x軸の共有点 12. 2次不等式 13. 2次不等式の利用 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 鋭角の三角比 2. 三角比の利用 3. 三角比の相互関係 4. 三角比の拡張 5. 三角比が与えられたときの角 第2節 正弦定理・余弦定理 6. 正弦定理 7. 余弦定理 8. 三角形の面積 9. 図形の計量 第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばり 4. データの相関 5. 相関係数 6. 分割表 7. 仮説検定の考え方 | 2次関数のグラフの取り扱いを習熟させ、種々の場合における関数の考え方を十分活用できるように指導する。 グラフを通して方程式や不等式の解の意味を考察し、2次不等式の解および解法について指導する。 * 2次関数のグラフは、高校数学において、重要かつ基礎的な内容である。グラフを確実にかけるようにしたい。図形の性質を計量的に扱う場合に基本となるのは、「線分の長さ」と「角の大きさ」であるが、三角比は、ちょうどこの両者を結びつけるものである。直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えのよいところを認識するとともに、それらを具体的に活用できるようにする。 * 三角定規の性質や中学校の図形の計量の復習も取り入れながら授業をすすめる。 集めたデータをどう整理し、見やすくしていくかを学び、それぞれの考え方の利点を理解する。最もよく使われる散らばり具合を表す数値として標準偏差を導入する良さを認識するとともに、その計算方法を身につける。相関のいろいろな例を通して、その有用性を知る。 | 55 |
| 合計 | | | 105時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|-------------------------|------|------|-----|--------|----|
| 教科 | 数学 | 科目 | 基礎数学 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 最新数学（数研出版） 発進！「数学」別冊 | | 副教材等 | | プリントなど | |

| 学習の目標 | | |
|---|--|--|
| <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> | | |
| <p>(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> | <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> | <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|---|---|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> | <p>命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を身に付けている。</p> | <p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p> |
| <p>定期考査</p> | <p>定期考査(思考問題)・発表・提出物等</p> | <p>教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況・振り返りシートの記述 等</p> |

| | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間等 |
|------------------------|--|--|-------------|
| 前 期 | 中学校の内容の確認 数の計算・文字式・方程式 | ・分数 小数の計算が確実にできるようにする。 | 6 |
| | 第1章 数と式 | | |
| | 1. 数と式 整式の加法・減法・乗法 展開の公式 因数分解 | ・基本的な問題が解けるように演習させる。 | 4 4 6 |
| | 2. 実数 平方根 | ・分母の有理化、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。 | 2 |
| | 3. 1次不等式 1次方程式 1次不等式 連立不等式 | ・移項して問題を解く。 ・不等式の性質を理解し、1次不等式の解を求める。 | 2 4 2 |
| 第2章 集合と命題 | ・集合と命題に関する基本的な概念を理解させる。 | 6 | |
| 後 期 | 第3章 2次関数 | | |
| | 1. 2次関数とグラフ 2次関数の最大・最小 | ・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解させる。 ・2次関数の最大値や最小値を求める。 | 8 4 |
| | 2. 2次方程式と2次不等式 | ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係を理解し、2次不等式の解を求める。 | 4 |
| | 第4章 図形と計量 三平方の定理 | ・中学校で既習の三平方の定理を復習する。 | 2 |
| | 1. 三角比の値 鈍角の三角比 | ・鋭角の三角比の意味を理解し、値を求める。 ・三角比を鈍角まで拡張する。 | 2 2 |
| 2. 正弦定理・余弦定理 三角形の面積 | ・定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求める。 | 6 | |
| 第5章 データの分析 データの代表値 | ・データを表やグラフに整理したり、データの散らばり具合や傾向を数値化したりする。 | 6 | |
| 合計 | | | 70時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|---------------|---------|------|-----|--------|----|
| 教科 | 理科 | 科目 | 科学と人間生活 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 科学と人間生活(実教出版) | | 副教材等 | | プリントなど | |

| 学習の目標 |
|---|
| <p>自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことで理解を深め、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な基本となる資質・能力を育成する。</p> |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|---|--|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。</p> | <p>人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したりすることにより、それを表現することができる。</p> | <p>自然の事物・現象について科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。</p> |
| <p>定期考査・小テスト・ワークシート等</p> | <p>定期考査(思考問題)・実験課プリント・振り返りシート・発表・話し合い・活動・質問等</p> | <p>授業態度・実験プリント・活動・提出物・総合的な取り組み状況等</p> |

通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 学 習 内 容 | 学 習 上 の 目 標 と 留 意 点 | 配当時間 等 |
|--------|--|--|---|-----------|
| 前 期 | 4 | 1章 科学と技術の発展 | 科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解すること。 | 35 |
| | 5 | 2章 物質の科学 | 1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。 | |
| | | 1節 材料とその再利用 | 身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について理解すること。 | |
| | | 1.生活の中のさまざまな物質 2.金属 3.プラスチック 4.セラミック | | |
| | 6 | 2節 食品と衣料 | 身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について理解すること。 | |
| 7 | 3章 生命の科学 | 1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。 | | |
| 8 | 1節 ヒトの生命現象 | 植物の生育、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて理解すること。 | | |
| | 1.私たちの生活環境と眼 2.ヒトの生命活動と健康の維持 3.ヒトの生命現象とDNA | | | |
| 9 | 2節 微生物とその利用 | 様々な微生物の存在と生態系での働き、微生物と人間生活とのかかわりについて理解すること。 | | |
| 後 期 | 10 | 2.微生物の利用 3.生態系での微生物 | 1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。 | 35 |
| | 11 | 4章 光や熱の科学 | 熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解すること。 | |
| | | 1節 熱の性質とその利用 | | |
| | 12 | 1.熱 2.熱の発生 3.エネルギーの変換と利用 | 光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解すること。 | |
| | 1 | 2節 光の性質とその利用 | 1節か2節のどちらかを教員が選択し、授業を行う。 | |
| 2 | 5章 宇宙や地球の科学 | 太陽や月などの身近に見られる天体と人間生活とのかかわりに、太陽系における地球について理解すること。太陽・月・地球の位置関係や地球の自転が潮汐にかかわっていることを理解すること。 | | |
| 2 | 1節 太陽と地球 | 身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解すること。 | | |
| | 1.身近な景観のなりたち 2.地球内部のエネルギー 3.自然の恵みと自然災害 | | | |
| | 6章 これからの科学と人間生活 | 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、そのかかわり方について考える。 | 計70 | |

| | | | | | | | |
|-------|--|----|-------------|-----|-----|----|----|
| 教科 | 外国語 | 科目 | 英語コミュニケーション | 単位数 | 3単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | All Aboard! English Communication (東京書籍) | | 副教材等 | | | | |

学習の目標

日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、

- ・必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- ・必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
- ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

評価規準(評価の観点及び趣旨)

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 | <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。</p> | <p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> |

| 学期 | 月 | 記録に残す評価の領域 | | | | | 単元 | 題材内容 | 評価方法及び内容 | | | |
|----|----|------------|---|----|----|---|---------------------------------------|---|---|--|---|--|
| | | L | R | SI | SP | W | | | | | | |
| 前期 | 4月 | | | | | | Warm-up 1・2・3 | <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベット ・教室で使う表現 ・辞書の使い方 / 疑問詞 | <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。 ・授業でよく使われる英語表現を理解し、使ってみる。 ・疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。 | | | |
| | 5月 | | | ○ | | | | | | Pre-Lesson1 My name is Ito Neko | <ul style="list-style-type: none"> ・be 動詞 | 【やりとり】名前・性格・特徴などについて自己紹介する。 |
| | 6月 | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | | ○ | | | Lesson1 Breakfast around the World | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の朝食を紹介するスピーチ ・過去形 | 【やりとり】【書く】好きな食べ物について質問し合う。 | | | |
| | | | | ○ | | | | | | 前期中間考査 (Pre-Lesson1, Pre-Lesson2, Lesson1) | <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R, W) | |
| | 7月 | | | | | | Lesson2 Australia's Cute Quokkas | <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの野生動物クオッカと観光のルール ・進行形: be 動詞 + 動詞の-ing 形 | 【やりとり】今していることについて伝える。 | | | |
| | 8月 | | | | | | | | | Lesson3 A Train Driver In Sanriku | <ul style="list-style-type: none"> ・被災地を運行する列車運転士のスピーチ ・助動詞: can, will | 【やりとり】【書く】ある場所への行き方とそこのできることにについて調べ、説明を書く。 |
| | 9月 | | | | | ○ | Lesson4 A Miracle Mirror | <ul style="list-style-type: none"> ・海外の観光地について書かれたメール ・to 不定詞: to + 動詞の原形 | 【発表】行ってみたい場所と理由を伝える。 | | | |
| | | | | ○ | | | | | | 前期期末考査 (Lesson2, Lesson3, Lesson4) | <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R, W) | |

| 学期 | 月 | 記録に残す 評価の領域 | | | | | 単元 | 題材内容 | 評価方法及び内容 | |
|----|-------------------|----------------|---|----|--------|------------------------------------|---|--|---|--------|
| | | L | R | SI | S P | W | | | | |
| 後期 | 10月 11月 12月 | | | ○ | | | Lesson5 Learning from the Sea | ・長浜高校水族館のユニークな部活動について ・動名詞・動詞の-ing形 | 【やりとり】するのが好きなことや将来の夢についてクラスメイトにインタビューする。 | |
| | | | | | | ○ | Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period | ・江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチ ・受け身: be 動詞 + 過去分詞 | 【書く】自分の好きなものとその理由を書く。 | |
| | | | | ○ | ○ | | Lesson7 A Diary of Hope | ・アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業 ・比較表現: -er the -est as + 原級 + as | 【発表】【書く】関心のある人物について調べ、その人のしたことや尊敬する点をクラスメイトにインタビューする。 | |
| | | | ○ | | | 後期中間考査 (Lesson5、 Lesson6、 Lesson7) | | ・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W) | | |
| | 12月 1月 2月 | | | ○ | | | Lesson8 A Door to a New Life | ・ロボットカフェを紹介する実況中継 ・現在完了形: have[has] + 過去分詞 | 【やりとり】経験したことについて伝える。 | |
| | | | | ○ | | | Lesson9 Fighting Plastic Pollution | ・プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動 ・名詞を後ろから説明する分詞 | 【発表】プラスチックごみ問題について調べ、発表する。 | |
| | | | | ○ | ○ | | Lesson10 Pigs from across the Sea | ・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、現在の交流 ・関係代名詞: who, which | 【書く】【発表】人やものについて説明する。 | |
| | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 後期期末考査(Lesson8、 Lesson9、 Lesson10) | | ・リスニングテスト ・スピーキングテスト ・筆記テスト(R、W) | |
| | 合計 | | | | | | | | | 105 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|-------------------------------------|----|------|--|-----|----|----|
| 教科 | 外国語 | 科目 | 基礎英語 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | All Aboard! English Communication I | | 副教材等 | All Aboard! English communication I BRIDGE WORKBOOK | | | |

| |
|--|
| 学習の目標 |
| <p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、の言語活動及びこれらをつなげた総合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。</p> |

| | | |
|--|--|--|
| 評価の観点 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できている。</p> | <p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。</p> | <p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> |
| 評価方法 | | |
| <p>○定期考査 ○確認テスト</p> | <p>○定期考査 ○発表、ペア(グループ)ワーク ○ノートの記述</p> | <p>○教師による行動観察 ○振り返りシートの記述 ○ノートの記述</p> |

年間指導計画

| 月 | 単元 | 題材内容 | 配当時間 |
|--------|-------------|--------------------|------|
| 4 | Warm-Up | アルファベット・辞書の使い方・疑問詞 | 18 |
| 5 | Pre-Lesson1 | Be 動詞 | |
| 6 | Pre-Lesson2 | 一般動詞・英文のしくみ(語順・文型) | |
| | Lesson1 | 過去形 | |
| | Lesson2 | 進行形 | |
| | Lesson3 | 助動詞 | |
| 前期中間考査 | | | |
| 7 | Lesson4 | to 不定詞 | 16 |
| 8 | Lesson5 | 動名詞 | |
| 9 | 前期期末考査 | | |
| 10 | Lesson6 | 受け身 | 20 |
| | Lesson7 | 比較表現 | |
| 11 | Lesson8 | 現在完了形 | |
| | 後期中間考査 | | |
| 12 | Lesson9 | 分詞 | 16 |
| 1 | Lesson10 | 関係代名詞 | |
| 2 | 後期期末考査 | | |
| 合計 | | | 70 |

| | | | | | | | |
|-------|-------|----------|----|------|-----|-------------|----|
| 教科 | 保健・体育 | 科目 | 保健 | 単位数 | 1単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 現代高等保健体育 | | 副教材等 | | 現代高等保健体育ノート | |

| 学習の目標 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身に付ける。 ・健康について考え、合理的、計画的な解決に向けて取り組み、目的や状況に応じて伝える力を身に付ける。 ・生涯を通じて自他の健康の保持増進や支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を目指す。 |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|--|--|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>・ 各種の指標や疾病構造の変化を通して健康を保持増進するための課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・ 健康や疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が深く関わっていることについて、理解している。</p> | <p>健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて簡単に説明できる。</p> | <p>現代社会と健康について各単元で健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 保健ノート取り組み ・ 課題プリント ・ 小テスト | <p>定期考査(思考問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 振り返りシート ・ 発表・話し合い ・ 活動・質問等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度や姿勢 ・ 教科書・ノート・筆記用具の準備 ・ ノート、レポートの記述 ・ 各種提出物 <p>(総合的な取り組み状況等)</p> |

年間指導計画

| | 単元名 | 指導内容 | 時数 |
|----|-----------------|--|-----|
| 1 | 健康の考え方と成り立ち | ・さまざまな健康の考え方。 ・健康を成り立たせている要因。 | 2 |
| 2 | 私たちの健康のすがた | ・わが国の健康水準の変化とその背景。 ・わが国の現在の健康問題。 | 2 |
| 3 | 生活習慣病の予防と回復 | ・生活習慣病の種類と要因。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防。 | 2 |
| 4 | がんの原因と予防 | ・がんの種類や原因。 ・がんの一次予防と二次予防。 | 2 |
| 5 | がんの治療と回復 | ・がんのおもな治療法や緩和とケア。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策。 | 1 |
| 6 | 運動と健康 | ・健康と運動の関係。 ・目的に応じた健康的な運動のしかた。 | 1 |
| 7 | 食事と健康 | ・食事と健康の関係。 ・健康的な食事のとり方。 | 1 |
| 8 | 休養・睡眠と健康 | ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方。 ・健康と睡眠の関係及び健康により睡眠のとり方。 | 1 |
| 9 | 喫煙と健康 | ・喫煙者やその周囲の人に起こる害。 ・喫煙対策。 | 2 |
| 10 | 飲酒と健康 | ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策。 | 2 |
| 11 | 薬物乱用と健康 | ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例。 | 2 |
| 12 | 精神疾患の特徴 | ・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状。 ・現代社会における精神保健の課題。 | 2 |
| 13 | 精神疾患の予防 | ・精神疾患を予防する方法。 ・精神疾患の早期発見。 | 2 |
| 14 | 精神疾患からの回復 | ・精神疾患の治療。 ・精神疾患の適切な治療や回復のために必要な社会環境。 | 2 |
| 15 | 現代の感染症 | ・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因。 | 2 |
| 16 | 感染症の予防 | ・感染症の予防対策について3原則。 ・感染症、個人と社会の対策。 | 2 |
| 17 | 性感染症・エイズとその予防 | ・性感染症・エイズがほかの感染症。 ・性感染症・エイズの予防とその対策。 | 2 |
| 18 | 健康に関する意思決定・行動選択 | ・意思決定・行動選択に影響を与える要因。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫。 | 2 |
| 19 | 健康に関する環境 | ・社会環境の健康への影響。 ・ヘルスプロモーションの考え方。 | 2 |
| | | | 計35 |

| | | | | | | | |
|-------|-------|----|----|------|-----|----|----|
| 教科 | 保健・体育 | 科目 | 体育 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | なし | | 副教材等 | | なし | |

| 学習の目標 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解する。 ・運動を継続するために課題を発見し、解決に向けて思考・判断するとともに、自他の考えたことを伝えることができる。 ・競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・個の多様性を理解し、これらを大切に考え運動を楽しむ態度を身に付ける。 |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|--|---|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識を身に付けている。</p> <p>生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。また、健康や安全につて必要な知識を身に付けている。</p> | <p>自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。また、個人及び社会生活における健康課題を発見しその解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現している。</p> | <p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。</p> <p>運動の合理的、計画的実践に主体的に取り組むことができる。また、健康を優先し、自他の健康と保持増進に取り組み健康な社会づくりに主体的に取り組もうとしている。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・運動技能テスト ・運動基礎テスト ・ゲーム、ゲーム運営、審判 <p>総合的な取り組みの様子等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・スキル、課題テスト ・健康管理、安全管理 ・発表、話し合いや協力 <p>総合的な取り組みの様子等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度やマナー ・レポート、提出物 ・道具の準備や片付け ・道具や施設の使い方 ・出席状況や見学の状況 <p>総合的な取り組みの様子等</p> |

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 時数 |
|----------|--|---|-----|
| 前期 | オリエンテーション | 評価方法 水泳 持久走 球技 体力づくり等 取り組みの姿勢等 | 1 |
| | 体育理論(6h) | 【体育理論】 運動やスポーツの合理的、計画的な実践を通して、知識や技能を深め、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたって豊かに実践できるようにするため、スポーツはどのような発展や変化をしてきたのか、どのような役割を果たしているのかといったスポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解できる。 | 6 |
| 後期 | 体づくり(7h) | 【体づくり運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の学習に主体的に取り組み、体力の構成要素や体づくり運動の実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。 | 7 |
| | 球技 (バドミントン、サッカー卓球、ソフ トボール、 バスケットボール、 バレーボール等) | 【球技】前・後期 ネットを挟んだ種目やゴールを目指す種目等、競技の特性やルールを理解しながら基礎練習に取り組むことができる。また自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、公正な態度や安全の確認、健康・安全に留意して練習やゲームができる態度を身に付ける。 | 42 |
| | 水泳 (平泳ぎ、クロール 背泳 バタフライ等) | 【水泳】 前期 水泳の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にする。健康や安全を確保するとともに、体の動きや呼吸のバランスを体験しながら自己の能力や課題に適した運動を継続することができ、また記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わうことができる。 体力に応じて複数の泳法を身に付けることができる。 | 6 |
| 陸上 持久走 等 | 【陸上競技】後期 記録の向上や競争の楽しさや喜びを深く味わい、陸上競技の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることができる。健康や安全を確保するとともに、課題解決の方法などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。 | 8 | |
| | | | 計70 |

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------------------------------|--------|------|-----|----|----|
| 教科 | 保健・体育 | 科目 | スポーツ講座 | 単位数 | 1単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | オリンピック・パラリンピック学 習読本(高等学校編) | | 副教材等 | | なし | |

学習の目標

スポーツの基本的な知識や意義について学ばせ、わが国及び世界各国に愛好されるスポーツの簡単なルールや戦術を理解させることにより、スポーツへの関心を高めるとともにスポーツに親しむ態度を養う。

また、軽スポーツからプロスポーツ、パラスポーツなどについて理解を深め、様々なスポーツへの関心を高め、健康の保持増進に役立つ考え方を身に付けさせる

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|--|--|--|
| 評価の観点及びその趣旨 | パラスポーツや軽スポーツ・プロスポーツに関する具体的な知識やゲーム展開を理解している。 ルールや戦略を理解して観戦を楽しむことができる。 活動する際の健康や安全について必要な知識を身に付けている。 | 自己や仲間の課題に応じた取り組み方法や勝ち負け以外の楽しみ方を考えて実践できる。 それらを表現している。また、課題を発見しその解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現したり発表したりできる。 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。 運動の合理的、計画的実践に必要な準備や実践に主体的に取り組むことができる。また、自他の体調を把握し健康の保持増進に主体的に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | 課題学習やレポート | レポートや発表 グループ協議 | 健康管理 態度・マナー レポートづくり 提出物 |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 時数 |
|-----------------------|--|---|---------------------|
| 4 5 6 7 8 | スポーツ 何？ スポーツへの関わり スポーツ調べ | ・スポーツの歴史、文化や意義について理解させる。 ・運動・スポーツのメリットとデメリットについて理解させる。 ・オリンピックや世界選手権、日本選手権、インターハイで活躍している選手とその取り組みを知ることにより心の変化や挫折と成長を繰り返していることを知る。 ・スポーツの始まりや文化、及びルールや戦術を理解させスポーツの楽しみ方を広げさせる。 | 4 5 5 |
| 9 10 11 | 世界のスポーツ スポーツへの関わり スポーツ調べ | ・世界各国のスポーツの歴史や人気スポーツ・スポーツの現在の状況について理解させる。 ・スポーツの技術と戦略について学習させ上達課程と練習方法、動きのメカニズムについて理解を深めさせる。 ・スポーツと経済・ドーピングとスポーツ倫理、運動が脳に及ぼす影響について知り深い知識を得させる。 | 4 4 5 |
| 12 1 2 | スポーツへの関わり スポーツ調べ | ・スポーツにおける技能と体力の関係やトレーニング方法について知り安全に実施することを理解させる。 ・生涯スポーツの考え方や、スポーツにかかわる職業やニュース、ライフスタイルに応じたスポーツについて考えさせスポーツや運動を生活の中にうまく位置付けることを理解させる。 | 4 4 |
| 合計 | | | 35 |

| | | | | | | | |
|-------|----|------------|----|------|-----|------|----|
| 教科 | 芸術 | 科目 | 音楽 | 単位数 | 3単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 「ON！」音楽之友社 | | 副教材等 | | プリント | |

| |
|---|
| 学習の目標 |
| 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|--|---|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などに関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けようとしている。 | 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。 | 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとする態度を養う。 |
| 活動状況 ワークシート 筆記テスト | 活動状況 ワークシート 振り返りシート 実技テスト | 活動状況 提出物 総合的な取り組み |

通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間等 |
|----|--|--|-----------|
| 前期 | <p>音楽をはじめよう 五線譜を見てみよう リズム メロディー 歌おう みんなで歌おう</p> <p>世界の心</p> <p>歌い継ぎたい愛唱歌</p> <p>ミュージカル</p> | <p>楽譜の読み方などを学び、音楽表現の基礎・基本を身につけさせる。</p> <p>シンコペーションの表現を身につけさせ、歌うことの楽しさを感じ取らせる。 翼をください 少年時代</p> <p>楽曲の背景と曲想との関りを意識させ、声の表現を工夫する。 オ - ソレ ミオ アニ - ローリー おお シャンゼリゼ</p> <p>唱歌の詩の意味を理解させ、詩とメロディー・リズムの関連を考え歌唱する。 花の街 夏の思い出 里の秋</p> <p>総合芸術であるミュージカルの特徴を理解させ、劇や物語と音楽との関りを意識した表現の工夫や、鑑賞をする。 A Whole New World すべての山に登れ</p> <p>*前期を通して、以上の内容を学習します。</p> | 55 |
| 後期 | <p>合わせよう ギターを弾こう</p> <p>アンサンブル</p> <p>知ろう、楽しもう 鑑賞 <西洋音楽></p> <p>歌おう 日本の歌</p> | <p>ギター - の楽譜の読み方、メロディーの基礎的な演奏方法の実習をする。 喜びの歌 Edelweiss</p> <p>楽譜を読む力を身につけさせ、リズムアンサンブルの実践を行う。</p> <p>西洋音楽の表現形態の特徴を理解させる。 音楽のよさや美しさ、音楽を聴いて感じたことを自分の言葉で書くことにより、自己表現力を身につけさせる。 交響曲 管弦楽曲 協奏曲 室内楽曲 独奏曲 歌曲 合唱曲 オペラ</p> <p>日本の芸術歌曲を歌唱し、“言葉と音楽”について考え、理解を深める。また、音楽用語をどのように歌うか考え、表現の工夫をする。 この道 小さな空</p> <p>*後期を通して、以上の内容を学習します。</p> | 50 |
| 合計 | | | 105 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|---------------------|----|------|-----|----|----|
| 教科 | 芸術 | 科目 | 美術 | 単位数 | 3単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 高校生の美術1 (日本文教出版) | | 副教材等 | | | |

| |
|---|
| 学習の目標 |
| <p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> |

| | | |
|---|---|---|
| 評価の観点・評価方法 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</p> <p>・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。</p> | <p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p> | <p>主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。</p> |
| ワークシート 実習・実技の状況 行動観察 | ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動 | 行動観察 実習・実技の状況 ワークシート 発表・話し合い活動 |

| |
|--|
| 担当者からのメッセージ 履修上の注意点等 |
| <p>・汚れても良いような服装を準備すること。 道具を使いますので、爪が長かったり、装飾品が外せなかったりすると技術力が発揮できないうえ、危険です。</p> <p>・作品制作により評価しますので、未完成であったり、完成していても完成度が低かったりすると評価が低くなります。</p> |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間等 |
|----|----------------------|---|-----------|
| 4 | 美術の学び方 ・オリエンテーション | ・美術 を学ぶ目的を理解しよう ・作品や課題の提出の仕方、評価方法について | 2 |
| 5 | 立方体のデッサン | ・画用紙で立方体を組み立てる ・鉛筆でハッチングとトーン練習 | 14 |
| 6 | | ・透視図法や遠近感を学ぶ ・面の表現、立体感を表現する ・合評 | |
| 7 | 驚きのある形 | ・色彩理論を学ぶ ・構成について学ぶ | 34 |
| 8 | | ・開くと絵が3段階に変化するカードをトータルカラー（色紙）でデザインする | |
| 9 | | | |
| 10 | 読書感想画制作 | ・モダンテクニックを学ぶ ・ブレインストーミングで想像力を働かせる | 30 |
| 11 | | ・発想をアイデアスケッチにまとめて下描き ・アクリル絵の具で着彩 | |
| 12 | ドライポイント版画 | ・版画の理論を学ぶ ・題材に合った主題を選び、線描や点描のモノクロ表現を生かして描画する | 25 |
| 1 | | ・刷り方に変化をつけて自己の表現を見つける ・合評 | |
| 2 | | | |
| 合計 | | | 105 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|------------|----|------|-----|----|----|
| 教科 | 芸術 | 科目 | 工芸 | 単位数 | 3単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 工芸（日本文教出版） | | 副教材等 | | | |

| |
|---|
| 学習の目標 |
| <p>工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。</p> |

| | | |
|---|--|---|
| 評価の観点・評価方法 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</p> <p>・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。</p> | <p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p> | <p>主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組もうとしている。</p> |
| ワークシート 実習・実技の状況 行動観察 | ワークシート 実習・実技の状況 発表・話し合い活動 | 行動観察 実習・実技の状況 ワークシート 発表・話し合い活動 |

| |
|---|
| 担当者からのメッセージ 履修上の注意点等 |
| <p>・汚れても良いような服装を準備すること。</p> <p>道具を使いますので、爪が長かったり、装飾品が外せなかったりすると技術力が発揮できないうえ、危険です。</p> <p>・作品制作により評価しますので、未完成であったり、完成していても完成度が低かったりすると評価が低くなります。</p> |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間等 |
|----------------|----------------------|---|-----------|
| 4 | 工芸の学び方 ・オリエンテーション | ・工芸 を学ぶ目的を理解しよう ・作品や課題の提出の仕方、評価方法について | 2 |
| 5 6 | 籐かご制作 | ・かごの用途やデザインを考える ・制作に必要な材料取りをする ・米字組を用いた制作技法を学ぶ ・締め方を考えて、仕上げる | 34 |
| 7 8 9 | 陶芸カップ&ソーサー 制作 | ・焼き物制作の流れを学習する ・大きさや絵付けの計画を練る ・玉造りによる成形、削り ・素焼きしたものに下絵付け、施釉 ・前期の作品を互いに鑑賞し合う | 14 |
| 10 11 12 | 金工スマホスタンド制作 | ・制作の流れを理解し、デザインを考える ・銅板を切り出してやすり掛け ・パイプに添わせて曲げ、鍛金 ・硫化させて着色する | 30 |
| 1 2 | 七宝焼アクセサリー 制 作 | ・制作の流れを理解し、デザインを考える ・銅板を切り打ち出す ・裏引後、絵付けし、焼成 ・後期の作品を互いに鑑賞し合う | 25 |
| 合計 | | | 105 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|----------|----|------|-----|----|----|
| 教科 | 芸術 | 科目 | 書道 | 単位数 | 3単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | | 光村図書「書道」 | | 副教材等 | | なし | |

| |
|--|
| 学習の目標 |
| 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|---|--|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 | 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 | 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 |
| 定期考査・小テスト・ワークシート・作品等 | 定期考査・作品・ワークシート・振り返りシート・発表・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・提出物(作品も含む)・総合的な取り組み状況等 |

通信科目の評価については、上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 担当 時間等 |
|-------------------|---|---|-----------|
| 4 月 | ・書道で学習すること ・書写から書道へ ・漢字の変遷とさまざまな書体 | ・小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認し、高等学校で学ぶ「芸術科書道」について理解する。 ・漢字には、五つの書体があることを理解する。 ・それぞれの書体の成立過程とその歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。 | 55 |
| 5 6 7 月 | ・楷書の学習 ・「孔子廟堂碑」 ・「九成宮禮泉銘」 ・「雁塔聖教序」 ・「顔氏家廟碑」 うちわへの創作 ・篆刻の学習 印を作るう | ・楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、理解する。 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 ・楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・楷書の古典で学習した用筆・運筆を生かした作品を創作する。 ・印の使い方や種類を理解する。 ・撰文・検字から押印・補刀までの制作手順を理解し、印を制作する。 | |
| 8 9 10 月 | ・行書の学習 ・「蘭亭序」 ・「風信帖」 ・半切への臨書 | ・行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、理解する。 ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 ・行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解し、仮名の基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。 ・仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 ・用具・溶剤の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解する。 | |
| 11 12 月 | ・仮名の学習 ・仮名の成立と種類 いろは歌 「蓬萊切」 | ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現について構想し工夫する。 ・創造された作品の価値と根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 | 50 |
| 1 2 月 | ・漢字仮名交じりの書 ・カレンダー創作 | | |
| 合計 | | | 105 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|-----------|----|----|------|-----|--------|----|
| 教科 | 商業・情報科 | 科目 | 情報 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1年 |
| 使用教科書 | 実教出版 最新情報 | | | 副教材等 | | プリントなど | |

| 学習の目標 | | |
|--|--|---|
| <p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う。学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> | | |
| <p>(1)情報と情報技術およびこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。</p> | <p>(2)様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> | <p>(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p> |

| 評価の観点・評価方法 | | |
|--|---|--|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間の関りについて理解している。</p> | <p>事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。</p> | <p>情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。</p> |
| <p>定期考査・小テスト</p> | <p>定期考査(思考問題)・発表・提出物等</p> | <p>教師による行動観察・授業態度・総合的な取り組み状況・振り返りシートの記述 等</p> |

通信科目の評価については上記に準じるとともに、レポートの提出が重要となる。

年間指導計画

| | 単元名 | 指導内容 | 担当 時間等 |
|--------|--|--|-----------|
| 前 期 | オリエンテーション | ○既習内容の調査、コンピュータ教室の使い方を理解する | 35 |
| | 第1章 情報社会と私たち 第1節 情報社会 第2節 情報社会の法規と権利 第3節 情報技術が築く新しい社会 | 情報社会の現状について、インターネット等を利用した調べ学習や情報の特性を活用した事例等の学習を通じて理解を深める。 ○他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ○個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 | |
| 後 期 | 第2章 メディアとデザイン 第1節 メディアとコミュニケーション 第2節 情報のデジタル化 第3節 情報デザインの実践 | ○メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る ○コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ○社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 ○プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 | 35 |
| | 第3章 システムとデジタル化 第1節 情報システムの構成 第2節 情報のデジタル化 | ○コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 アナログとデジタルの違いについて理解する。 音声・画像などのメディアについてデジタルで表現する方法について理解する。 | |
| 後 期 | 第4章 ネットワークとセキュリティ 第1節 情報通信ネットワーク 第2節 情報セキュリティ | ○情報通信ネットワークの構成について理解する。 ○Webページとメールの仕組みについて理解する。 ○脅威に対する様々な安全対策について理解する。 ○情報セキュリティを確保や、情報を安全に取り扱うための方法や技術について理解する。 | 35 |
| | 第5章 問題解決とその方法 第1節 問題解決 第2節 データの活用 第3節 モデル化 第4節 シミュレーション | ○問題を明確化し、解決していく手順について理解する ○実行した解決案を評価する方法について理解する。 ○表計算ソフトを利用して、データを収集、整理する技術を身に付け、グラフや図などで表現する方法を理解する。 ○データ分析の手法について理解する。 ○問題解決のためにシミュレーションを活用する。 | |
| 後 期 | 第6章 アルゴリズムとプログラミング 第1節 プログラミングの方法 第2節 プログラミングの実践 | アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ○プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ○変数や関数を用いたプログラムを作成する。 ○多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。 | 70 時間 |
| | 合計 | | |

| | | | | | | | |
|-------|----|----|-------|------|-----|----|-----|
| 教科 | 国語 | 科目 | 話し方講座 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 全学年 |
| 使用教科書 | | なし | | 副教材等 | | なし | |

| 学習の目標 | |
|---|--|
| <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育てる。</p> <p>TPOに応じた話し方、雰囲気作り、独創的な自己表現方法を身につける韓国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、韓国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> | |

| 評価の観点及びその趣旨 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|--|---|---|
| | 呼吸法・発声法の基礎的な知識について理解し、適切な発声法が身についている。 言葉の特徴や表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う事ができている。 | 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して伝える内容を検討することができる力を身につけている。 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる力を身につけている。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、表現活動を通して人との豊かなかかわりを知るとともに他者や社会に意欲的に関わったり、言語を効果的に使おうとしている。 |
| 評価方法 | 小テスト・ワークシート・レポート等 | ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等 |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指 導 内 容 | 配当 時間等 |
|----|---|---|-----------|
| 4 | 音声要素 ・呼吸法、発声法 日常の言葉づかいを見直す | ・腹式呼吸、発声、姿勢、表情、雰囲気作りなどに気をつけさせる ・自己紹介、他人紹介 | 16 時間 |
| 5 | ・感じのよい話し方を身につける ・プラスの言葉の習熟 ・マイナスの言葉を見直す | ・会話の糸口の見つけ方 ・相づちの方法、種類、変化 ・表情の作り方 ・言葉の選び方、敬語 | |
| 6 | 取材、分析 ・円滑な会話のための準備 | ・5W1Hでの取材(聞き上手の方法)・分析(リサーチ、準備、まとめる力) | 20 時間 |
| 7 | TPOにあわせた会話選び | ・電話のかけ方、受け方 | |
| 8 | ・起承転結の訓練(構成力向上をめざす) | | |
| 9 | ・短い時間での印象づくり | | |
| 10 | 口に出して読む ・文章を音声化して伝える | ・朗読(読み聞かせ、録音・自分の声を知る) | 18 時間 |
| 11 | 職業疑似体験 ・どのようにしたら伝わるかを身につける | ・場面体験(リポート) ・伝え方の違いやコツを学ぶ | |
| 12 | 自己アピールの表現 | ・プレゼンテーションや自己主張の方法 | 16 時間 |
| 1 | ・プレゼンテーションで自分の意思を伝える | | |
| 2 | | | |
| 合計 | | | 70 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|-----|----|--------|------|-----|----|-----|
| 教科 | 外国語 | 科目 | ハングル入門 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 全学年 |
| 使用教科書 | | なし | | 副教材等 | | なし | |

| 学習の目標 | |
|---|--|
| 韓国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、韓国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | |

| 評価の観点及びその趣旨 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|---|--|---|
| | 生活会話から韓国語の文字・発音・基礎文法を理解し、簡単な会話を聞き、読み、書き、話すことができる。 | 韓国語の様々なシーンでの具体的な活用について考え、表現することができる。聞き手や話し手の意図を的確に捉え、話したり書いたりしながら自分の意見を伝え合うことができる。 | 我が国の文化や、韓国の文化に関心を持ち、主体的に理解しようとしている。韓国語を用いて自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。 |
| 評価方法 | 小テスト・ワークシート・レポート等 | ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等 |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当時間等 |
|-----|------------|------------------------------------|-------|
| 4・5 | ・発音 母音及び子音 | ・母音及び子音の発音と、読み書きを習得させる。 | 11 |
| | ・自己紹介 | ・基本的な自己紹介ができるようになる。 | 7 |
| 6・7 | ・NはNです | ・基本文型・物の名前を覚えさせる。 | 7 |
| | ・家族の呼称 | ・基本文型及び家族の呼称を理解させる。 | 7 |
| 8・9 | ・Nにあります | ・身の回りの物の所在が言えるようになる。 | 7 |
| 10 | ・NをVます | ・基本的な動詞を使い、日常生活の基本的な行動の言い方を理解させる。 | 9 |
| 11 | ・尊敬、未来形 | ・尊敬語と動詞の未来形を理解させ、未来のできごとが言えるようになる。 | 9 |
| 12 | ・動詞の過去形 | ・動詞の過去形を使用し、過去のできごとや経験が言えるようになる。 | 7 |
| 1 | ・動詞の活用 | ・動詞の活用形を学習し、日常会話が話せるようになる。 | 6 |
| 2 | | | |
| 合計 | | | 70時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|----|----|------|-----|----|-----|
| 教科 | 総合 | 科目 | 手話 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 全学年 |
| 使用教科書 | | なし | | 副教材等 | | なし | |

| |
|---|
| 学習の目標 |
| <p>手話の学習を通して、聴覚障害や聴覚障害者についての理解と認識を深め、聴覚障害者とのコミュニケーション手段を知る。 手話で挨拶や自己紹介ができるように基礎を学び、簡単な会話ができるよう学びを深めていく。</p> |

| 評価の観点及びその趣旨 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|--|--|---|
| | 聴覚障害や聴覚障害者の生活について理解を深めるとともに、手話を聴覚障害のある方とのコミュニケーション手段として活用できるよう基礎的な知識や技術を身につけている。 | 学んだ技術をもとに、課題や題材の内容について自らの考えや答えを手話を用いて表現できる。実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、聴覚障害者との関わりと福祉について主体的に学習に取り組んだり、振り返って改善しながら、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。 |
| 評価方法 | 小テスト(実技)、レポート 実技内容 | グループでの発表、手話による会話での表現、レポート | 授業態度、記録ノート、行動観察、レポート |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当時間等 |
|----|---|--|-------|
| 4 | 手話とは ・聴覚障害者や手話の基本知識 | ・物の形、表情、動作などの特徴をとらえ、工夫して表現すれば伝えることができることを気づかせる | 10時間 |
| 5 | ・聴覚障害について 聴覚障害者の生活 あいさつ・指文字 | ・伝えあうのは「ことば」だけではなく、観る力も必要であることを知る ・恥ずかしがらず表現できるようにする | |
| 6 | 自己紹介 ・名前、家族、趣味、数字、仕事、 | ・指文字をするとき、向きに気をつける | 9時間 |
| 7 | 案内などが手話でできるようにする ・聴覚障害者の仕事を知る 県名 | ・自分のことを、手話で紹介できるようにする ・名前の表現の仕方もさまざまであることを知る ・家族の説明は、年齢や上下関係に気をつけて表現するよう指導する | |
| 8 | ・行きたい場所を手話で表現する 復習 | ・今まで習った内容も含めて表現できるようにする | 9時間 |
| 9 | ・1日、1週間 ・会話をする 季節 | ・休みの間、何をしていたか表現してみる ・1日や1週間のできごとを発表しあう ・曜日の手話を会話にとりいれる | 10時間 |
| 10 | ・疑問詞の手話単語 | ・好きな季節、嫌いな季節を話し合う | 8時間 |
| 11 | ・話しかける手話 さまざまな表現 ・例文を表現してみる ・グループで表現を考えて、発表 してみる 歌 | ・言いたいことを文章にしてから、手話で表現できるようにする ・歌を手話で表現できることを知る | 8時間 |
| 12 | ・手話で歌ってみる 聴覚障害者の体験 | ・グループを作り体験をする | 6時間 |
| 1 | ・伝達ゲーム(身振り)で伝え合う。 まとめ | | 6時間 |
| 2 | ・手話を学習して思ったことを発表 する | ・どのくらい手話を覚えているか、表現できたかを確認する | 4時間 |
| 合計 | | | 70時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|----|-------|------|-----|----|-----|
| 教科 | 家庭 | 科目 | 色のトピラ | 単位数 | 2単位 | 学年 | 全学年 |
| 使用教科書 | | なし | | 副教材等 | | なし | |

| |
|--|
| 学習の目標 |
| 身の回りの色彩活用事例を通して、色彩理論を概説し、色彩文化の理解を深めさせ、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。 |

| 評価の観点及びその趣旨 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|--|---|---|
| | 生活の中での色の効果・取り入れ方などの基礎知識を習得するとともに、健康で楽しく生活するための色使いについて知識を深めている。 | 色の基本の考え方や原理を活用して、様々なシーンでの具体的な活用が考察・提案でき、衣食住における色の有効な取り入れ方、設計したことを説明したり、議論したりしている。 | ライフケアカラーを活用することですべての人が心豊かな生活を送ることができるという気づきがある。 |
| 評価方法 | 小テスト・ワークシート・レポート等 | ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・質問等 | 授業態度・レポート・記録ノート・総合的な取り組み状況等 |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当時間等 |
|----|---|--|-------|
| 4 | 色の基本 | 色彩活用事例を参考に、色彩文化の理解の深め方を理解させる。 | 15 |
| 5 | | 色の専門用語を理解させる。 配色カードで色相を理解させる。 | |
| 6 | | 色相環を作り、理解させる グレースケールを作り、理解させる。 | 12 |
| 7 | | 等色相面を作り、色の成り立ちを理解させる。 色の三属性を使って理解させる。 | |
| 8 | | 考察した事例を発表し、理解を深めさせる。 色彩文化を理解させる。 | 8 |
| 9 | | 色のイメージ活用について考察した事例を発表し、理解を深めさせる。 等色相面を作成し、色の三属性を復習させる。 | |
| 10 | | 色名の由来から色彩文化を理解させる。 色相環を復習し、色相配色形式を理解させる。 | |
| 11 | | トーン表を作成し、トーンを理解させる。 トーン表を復習し、トーン配色形式を理解させる。 3色以上の配色技法を理解させる。 | 11 |
| 12 | | 「衣」の色彩活用を理解させる。 「食」の色彩活用を理解させる。 「住」の色彩活用を理解させる。 色光を理解させる。 | 11 |
| 1 | 色覚を理解させる。 ライフケアカラーを理解させる。 | | |
| 2 | 色彩設計の意図を理解させる。 パッケージデザインについて考察した事例を発表し、知識を深めさせる。 安全色彩について考察した事例を発表し、知識を深めさせる。 | | |
| 合計 | | | 70時間 |

| | | | | | | | |
|-------|----|----|------|------|-----|----|-----|
| 教科 | 家庭 | 科目 | 茶道入門 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 全学年 |
| 使用教科書 | | なし | | 副教材等 | | なし | |

| |
|---|
| 学習の目標 |
| 茶道についての知識、技術の習得を通して、日本の伝統文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |

| 評価の観点及びその趣旨 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|--|---|--|
| | 茶道の文化に親しみ、歴史や思想などの基礎的知識を理解しているとともに、それらにかかる技能(基本の所作・点前の作法)を身につけている。 | 伝統文化の伝承の重要性を踏まえ、茶道の学びを通して、自然や美を感じ、譲り合いや思いやる心、感謝の心を学び、知識・技術の習得に基づいて実践的に表現することができる。 | 日本の伝統文化に関心を持ち、尊重し学ぼうとする意欲的な態度が見られ、技術向上のために、茶道への関心を高めようと主体的に取り組もうとしている。 茶道を通して地域社会とのつながりを経験するとともに、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |
| 評価方法 | 確認テスト(実技)・レポート等 | 記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等 |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指 導 内 容 | 配当 時間等 |
|----|-------------|---|-----------|
| 4 | 客のマナー | 持ち物 客のお辞儀の仕方、襖の開け方・閉め方、客の立ち | 11 時間 |
| 5 | ・客のマナーを学ぶ | 居振る舞い、蹲踞の使い方、広間の席入り、床・釜・道具の拝見、お菓子のいただき方、薄茶のいただき方、茶碗の拝見 | |
| 6 | 基本のけいこ | 基本の所作(座る)(お辞儀)(立ち上がる)(歩く・回る)、道具 | 13 時間 |
| 7 | ・基本のけいこを学ぶ | をもって入る・出る、服紗の扱い方、服紗のさばき方、棗のふき方、茶杓のふき方、茶筌とうじ・すすぎ方、茶巾のたたみ方、茶碗のふき方、風炉の柄杓の扱い方、茶杓の扱い方、水指の扱い方、建水・蓋置の扱い方 | |
| 8 | | 薄茶運び点前 | 27 時間 |
| 9 | 風炉の薄茶点前 | 道具を運ぶ、柄杓を引く、茶器・茶杓を拭く、茶筌とうじ、茶 | |
| 10 | ・風炉の薄茶点前を学ぶ | 碗を拭く、お茶をはく、お茶を点てる、お茶を出す、仕舞いの | |
| 11 | | 礼、茶筌すすぎ、茶杓を拭く、中仕舞い、釜に水をさし水指の蓋をする、道具を下げる | |
| 12 | 炉の薄茶点前 | 薄茶小棚点前(丸卓をつかって) | 19 時間 |
| | ・炉の薄茶点前を学ぶ | 薄茶運び点前 | |
| 1 | | 道具を運ぶ、柄杓を引く、茶器・茶杓を拭く、茶筌とうじ、茶 | |
| 2 | | 碗を拭く、お茶をはく、お茶を点てる、お茶を出す、仕舞いの | |
| | | 礼、茶筌すすぎ、茶杓を拭く、中仕舞い、釜に水をさし水指の蓋をする、道具を下げる | |
| | | 薄茶大棚点前(長板をつかって) | |
| 合計 | | | 70 時間 |

| | | | | | | | |
|-------|-----|----|-------|------|-----|----|-----|
| 教科 | 外国語 | 科目 | 中国語入門 | 単位数 | 2単位 | 学年 | 全学年 |
| 使用教科書 | | なし | | 副教材等 | | なし | |

| 学習の目標 | |
|---|--|
| 中国語学習にあたって必要な基礎的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得とともに、背景にある文化に対する理解を深め、中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 | |

| 評価の観点及びその趣旨 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------|---|--|---|
| | 生活会話から中国語の文字・発音・基礎文法を理解し、簡単な会話を聞き、読み、書き、話すことができる。 | 中国語の様々なシーンでの具体的な活用について考え、表現することができる。聞き手や話し手の意図を的確に捉え、話したり書いたりしながら自分の意見を伝え合うことができる。 | 我が国の文化や、中国の文化に関心を持ち、主体的に理解しようとしている。中国語を用いて自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。 |
| 評価方法 | 小テスト・ワークシート・レポート等 | ワークシート・記録ノート・レポート・発表・話し合い・活動・質問等 | 授業態度・レポート・活動・記録ノート・総合的な取り組み状況等 |

年間指導計画

| 月 | 単元名 | 指導内容 | 配当 時間等 |
|------------------------|--|---|-----------|
| 4 ・ 5 | ・中国とは ・あいさつする ・名前を尋ねる ・食べたいものを尋ねる | ・中国についての簡単な説明 ・正しい発音・声調の練習 ・簡単なあいさつの練習 ・質問に対する答えができるようになる ・動詞の肯定形・否定形を知る | 17 |
| 6 ・ 7 | ・近況を尋ねる ・予定を尋ねる ・場所を尋ねる | ・形容詞文の作り方を知る ・日付・時刻の言い方を知る ・場所の尋ね方を知る ・～は～にあるという言い方を知る | 15 |
| 8 ・ 9 ・ 10 | ・注文する ・値段を交渉する ・出来事を尋ねる | ・ある・ない・持っている・持っていないの言い方を知る ・数量の言い方を知る ・値段交渉のやり方を知る ・完了の言い方を知る ・補語の使い方を知る ・強調文を知る | 21 |
| 12 ・ 1 ・ 2 | ・希望を尋ねる ・行き方を尋ねる ・経験を尋ねる | ・自分の希望の伝え方を知る ・前置詞の使い方を知る ・時間の長さの言い方を知る ・～したことがあるという言い方を知る | 17 |
| 合計 | | | 70時間 |

| 形態 | 主に1年次に選択する科目 | 令和2年度以前の入学で2年以上で再登録する科目 | 2年次に必ず登録する科目 | 主に2年次以上に選択する科目 | | | | |
|----------|---|--|--------------|-----------------------------|----------------------------|-------------------|----------------------|-------|
| | | | | 次年度の2年次以上登録可 | | | 次年度の3年次以上登録可 | |
| 3単位 | 英語コミュニケーション (1年生のみ) 公共(1年生のみ) 数学 | | | ビジネス基礎 物理基礎 体育2・保健2男女 | 古典A 生物基礎 | 子どもの発達と保育 地学基礎 | 数学 | |
| | 現代の国語(2)・言語文化(2)(1年生のみ) 体育1・保健1・スポーツ講座男女 | 国語総合 | 家庭総合 | 世界史B コミュニケーション英語 | 日本史B | 数学 | 生物 フードデザインB | |
| 1 | 2単位 | 科学と人間生活 | | 地理A | 倫理 | 英語表現 | 数学 体育男女 | |
| 2 | 2単位 | 情報 (1年生のみ) | | 世界史A 現代文A | 政治経済 | 数学B | | |
| 3単位 | 公共(1年生のみ) 音楽 美術 書道 工芸 | コミュニケーション英語 | | 数学A 情報処理 | 化学基礎 電子商取引 | 地学基礎 消費生活 | 体育3男女 | |
| | 現代の国語(2)・言語文化(2)(1年生のみ) 体育1・保健1・スポーツ講座男女 | | 家庭総合 | 地理B | 現代文B | | コミュニケーション英語 化学 | |
| 1 | 2単位 | 科学と人間生活 | 社会と情報 | 日本史A 音楽 | 政治経済 美術 | 工芸 書道 | | |
| 2 | 2単位 | 情報 (1年生のみ) | | 世界史A | 倫理 | 服飾手芸 英語表現 | 音楽 工芸 美術 書道 | |
| 3単位 | 英語コミュニケーション (1年生のみ) 数学 | 現代社会 | | 数学A 化学基礎 | 簿記 生物基礎 | 古典A 体育2・保健2男女 | フードデザインA | |
| | 【前期】 1単位 | 総合探究 | | 総合探究 | | | | |
| 【後期】 1単位 | 総合探究 | | 総合探究 | | | | | |
| S5 | 3・4単位 通信科目 | 英語コミュニケーション (3) (1年生のみ) 公共(3)(1年生のみ) 数学 (3) 音楽 (3) 工芸 (3) 書道 (3) | | 世界史B(4) コミュニケーション英語 (4) | 日本史B(4) | 国語表現(3) ビジネス基礎(3) | 体育3男女(3) | |
| S6 | 3・4単位 通信科目 | 現代の国語(2)・言語文化(2)(1年生のみ) | 家庭総合(4) | 地理B(4) 生物基礎(3) | 数学 (4) 数学A(3) | 書道 (3) | 英語表現 (4) | |
| S6【前期】 | 1・2単位 | 情報 (2)(1年生のみ) | | 日本史A(2) | 体育2(2)男女 | 保健1(1)男女 | 美術 (2) | |
| S6【後期】 | 1・2単位 | 科学と人間生活(2) | | 世界史A(2) | 保健2(1)男女 | 英語表現 (2) | 音楽 (2) | |
| | 1・2単位 | 基礎数学(1年生のみ) (2) | | 器楽の楽しみ | 絵画(科目名変更予定) | 社会演習 | 未来を拓く(1) | |
| | 1・2単位 | 基礎英語(1年生のみ) (2) 未来を拓く(1) | | 現代書道 | 陶芸 | | 発展英語 | |
| | 1・2単位 | 基礎国語(1年生のみ) (2) | | 英語でトーク 学びを創る(1)(前期) | 数学課題探求 大学生生活と心理学(1)(後期) | | 未来を拓く(1) | |
| | 2単位 | やさしい英語 やさしい数学 | | | | | | 受験の国語 |
| 他 | 1単位 | | | 自然科学概論(1)(夏期) | | | | |

*数学 は と 1の両方を選択してください。

*「体育1」または「保健1」の未履修が決定した生徒については、体育は「体育2・保健2」を登録し、保健1はS6前期の保健1を登録してください。

*「体育2」または「保健2」の未履修が決定した生徒については、体育は体育3を登録し、保健2はS6後期の保健2を登録してください。

*「体育2・保健2」の両方の未履修が決定した生徒については、「体育2・保健2」の再履修できます。

*「基礎国語・基礎数学・基礎英語」の登録は、原則として1年生に限りです。

* のついている科目は、共通講座で、 のついている科目は、高大連携です。登録をする場合は、受講資格があるかどうかを確認してください。

共通講座の開講科目については、学年末の教科登録までに変更がある場合があります。また、特別講座は最終登録時に次年度の計画が発表になります。